

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

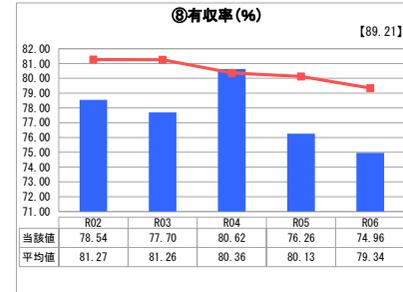
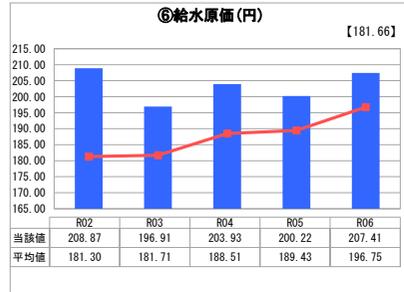
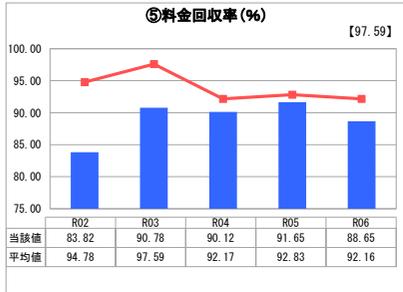
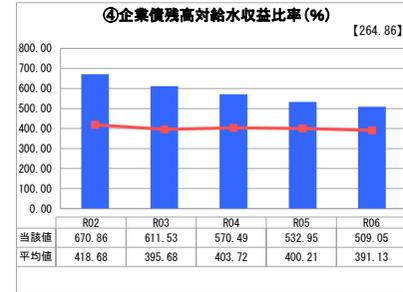
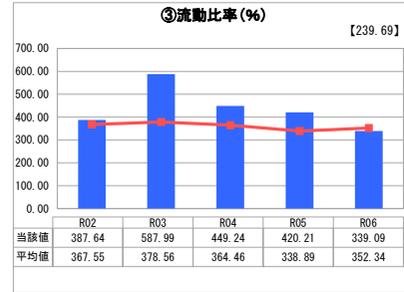
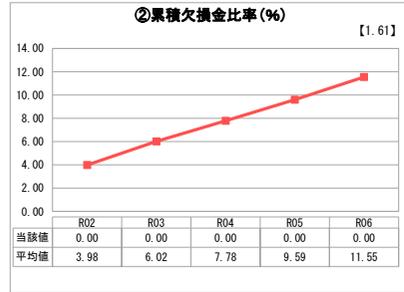
岩手県 八幡平市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家賃料金(円)	
-	69.52	82.44	3,377	

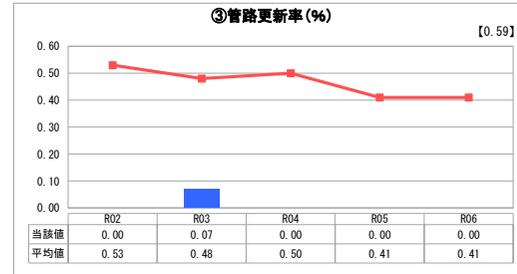
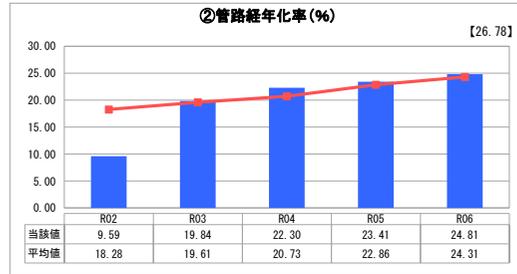
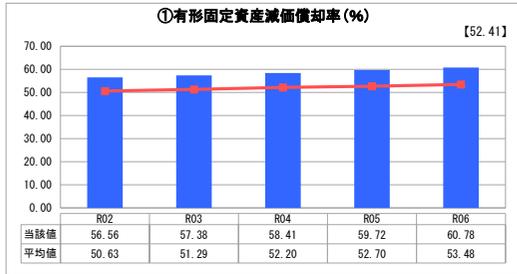
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
23,179	862.30	26.88
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
18,919	205.42	92.10

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度はコロナ禍からの宿泊施設等による使用量の低迷が続いたほか、家庭用における使用水量も大幅に減少した。その結果、給水収益、有収水量ともに減少した。一方で、メーター交換業務の対象戸数増による委託料の増加のほか、配水管漏水が多発したことから、修繕費及び材料費が大幅に増加した。

以上より、①経常収支比率及び⑤料金回収率は前年度より減少し、⑥給水原価は増加した。⑤料金回収率は100%未満であることから、水道料金収益だけでは、水道事業の運営に必要な費用を賄いきれていない状態であるが、一般会計から負担金、補助金を繰り入れることにより、黒字の状態を維持している（①経常収支比率が100%以上となっている）。

近年において、配水管漏水が多発しているが、令和6年度は前年度の倍近くに発生件数が増加した。漏水の早期発見と修繕対応に努めているものの、漏水箇所の特定に時間を要したところがあり、⑧有収率は更に減少した。

市内全域において小規模施設が点在しているほか、組合水道及び井戸を使用している世帯が比較的多いことから、⑦施設利用率は50%以下と低水準のままである。今後においても、令和4年度に策定した水道ビジョン（施設更新計画）に基づき、配水管漏水の抑制及び小規模配水池の統合など施設の効率化を進めるほか、安定した事業経営の実現に向けて、経費の更なる抑制に努める。

### 2. 老朽化の状況について

県産業廃棄物最終処分場関連の配水管布設工事に続き、令和5年度から水源水質保全対策工事（浄水場整備）を優先する必要があることから、③管路更新率は0%の状態が続いている。

また、令和3年度から実施している施設更新事業は、経営状況を考慮して進めていることから、資産全体としては更新が進んでおらず、①有形固定資産減価償却率で示すとおり、年々減価償却が進んでいる。

そして、耐用年数である40年を経過した配水管が急増し、②管路経年化率は類似団体平均値とほぼ同じ状態となっている。今後数年は、管路経年化率が更に急増すると見込まれることから、老朽管更新事業の着手が急務である。

今後においても、資金量（①の③流動比率）の動向を注視しながら施設更新を進める。

### 全体総括

1及び2で示すとおり、平成29年度からの経営努力により、企業債残高（④企業債残高対給水収益比率）が減少し、資金量を維持（①の③流動比率200%以上）しているものの、依然として厳しい経営状況である。広大な面積に点在して整備してきた固定資産や企業債残高が多い上、事業運営に必要となる資金が水道料金で確保できていない（⑤料金回収率（①の⑤）100%未満）ことが事業経営に影響を及ぼしている。

企業債償還金（借入返済額）の減少に伴い、基準外の一般会計繰入金も減少していることから、給水収益（水道料金）をはじめとする財源の確保が急務である。

今後においては、令和5年度に策定した経営戦略（改訂版）の財政シミュレーションを検証しながら、適正水準による料金収入の確保を検討する。